

A4

進化し続けるプロダクトを作るための開発チーム

IoT Technology Conference if-up 2019

2019/02/14

A4

進化し続けるプロダクトを作るための開発チーム



及川 卓也
Tably



成田 一生
クックパッド



横路 隆
free



安川 健太
ソラコム

sli.doの利用 - 質問をオンラインで受け付けます



イベント空間への入り方

1. ブラウザを立ち上げ
2. **slido.com** または **sli.do** を開き
3. イベントコードとして**#IFUP2019A4** を入力

* 質問をするか、すでにされている質問に投票します。



# Enter event code	JOIN
	
# IFUP2019A4	JOIN



及川卓也

Tably株式会社 Technology Enabler

早稲田大学理工学部を卒業後、日本DECに就職。営業サポート、ソフトウェア開発、研究開発に従事し、1997年からはマイクロソフトでWindows製品の開発に携わる。2006年以降は、GoogleにてWeb検索のプロダクトマネジメントやChromeのエンジニアリングマネジメントなどを行う。その後、プログラマーのための情報共有コミュニティサービス「Qiita」を開発・運営するIncrementsでの勤務を経て、2017年より独立。

- スタートアップから大企業までの支援
 - 技術
 - プロダクト
 - エンジニアリング組織

1分でわかったつもりになる 「マイクロサービス」

従来のモノリシック（一枚岩）アーキテクチャで作られるサービスと異なり、個別の小さな機能単位でのコンポーネントの組み合わせでサービスを作る考え方。

開発を小さな機能単位で行うことが可能となり、変化への対応が柔軟かつスピーディーに行うことが出来る。



cookpad



成田 一生 (なるた いっせい)

@mirakui

クックパッド株式会社 執行役 CTO

1984年生まれ

愛知県出身

Microservices in cookpad

- 2014年ごろからモノリシックアーキテクチャからの移行を決断
 - 1システムが巨大だとできないことが多い
- 分割方針
 - 既存機能はビジネス上必要性のある単位で分割を進める（やりすぎない）
 - 新しい機能は別サービスで作って繋ぐ事が前提
 - 基盤チームが音頭を取って技術的な整備や事業側のサポートを行う
- 感じているメリット
 - 開発速度: 共通基盤が整ってきたので現在は快適
 - 教育的側面: オーナーシップ、当事者意識、イチから作る機会
- 感じているデメリット
 - 組織的側面: 社内流動性が高く、オーナー不在のサービスが発生することがある
 - コスト: まともに機能させるためには大きな技術投資が必要

Microservices in cookpad

- 他社よりうまくやれてそうな部分
 - 技術投資は早くから行ってきたので基盤が整っている
 - 現場ニーズからではなく経営判断としてマイクロサービスをやっている
 - ほどよくマネージドサービスや OSS に乗ることで、標準的な構成になっている
- 「我が社もマイクロサービス化したほうがいいですか？」
 - **場合による**し、大体的場合はしなくて良いと思います

Microservices の特徴

- サービスによるコンポーネント化：ライブラリではなく別プロセスで動作するサービスによってアプリケーションのコンポーネント化を実現している。
- ビジネスレイバビリティに基づく組織化：役割ごとにチームが構成されるのではなく、複数の役割が混在したチームがひとつのサービスを構築する。（コンウェイの法則！）
- スマートエンドポイント、ダムパイプ：サービス間のメッセージは、HTTP経由でAPI呼び出しされるか、RabbitMQやZeroMQといった軽量メッセージングシステムによる通信で交換される。
- 分散ガバナンス：サービスごとに言語やデータベースなどは統一されず、個別に適切なものが選択される。
- 分散データ管理：サービスごとにデータを持ち、統合されていない。
- インフラストラクチャ自動化：継続的デリバリが実現され、自動テスト、自動デプロイなどが採用されている。
- 障害設計：サービス障害に耐性を持つように設計されている。
- 進化的設計：各サービスごとに変更が行なわれ、漸進的に設計がされる。

Mission

スモールビジネスを、
世界の主役に。





市場調査からもシェア

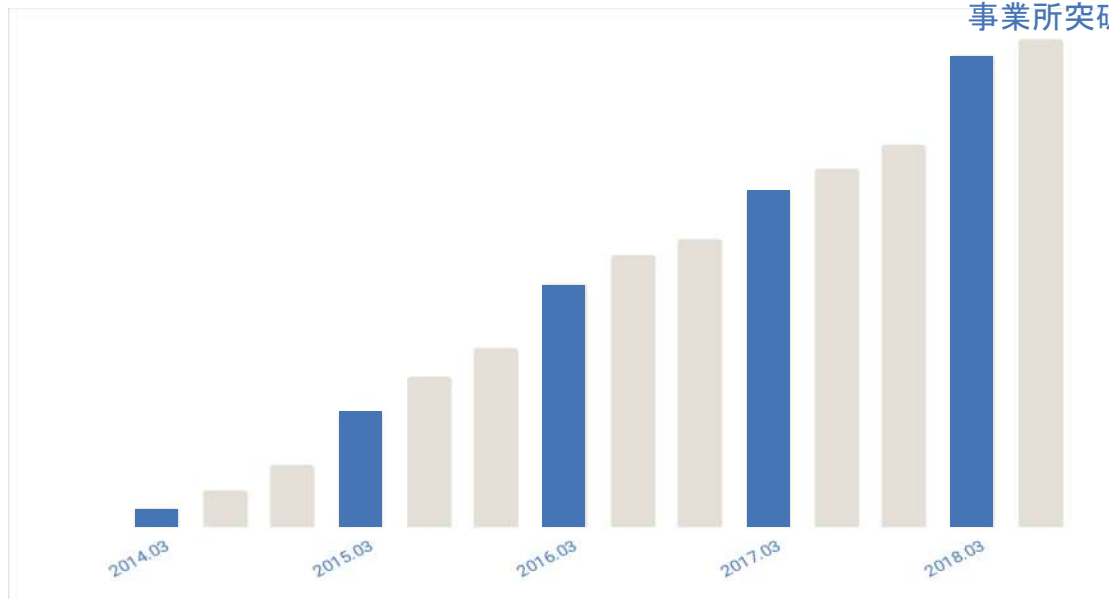
No.1



事業所数累計

100万

事業所突破



マンションの一室で創業



創業6年半・従業員505名・1/3がエンジニア



Microservices @ freee

- マイクロサービス導入の背景

- 会計freeeは大規模なモノリシックサービス on Rails
- 組織&コードベース拡大で開発速度&品質低下

- 工夫したポイント

- プロダクト戦略から考えて重要なところから分割
- DB Transaction境界・サービスIFの設計がほぼ全て
- 腐敗防止層を設けて段階的リリース
- サービス基盤チームへの投資とセットで実施

自己紹介



安川 健太

Cofounder & CTO, SORACOM Inc.

略歴:

Researcher at Ericsson Research

AWS Solutions Architect

AWS NoSQL Developer & SA

個人的なこと :

2017年から家族でUSに

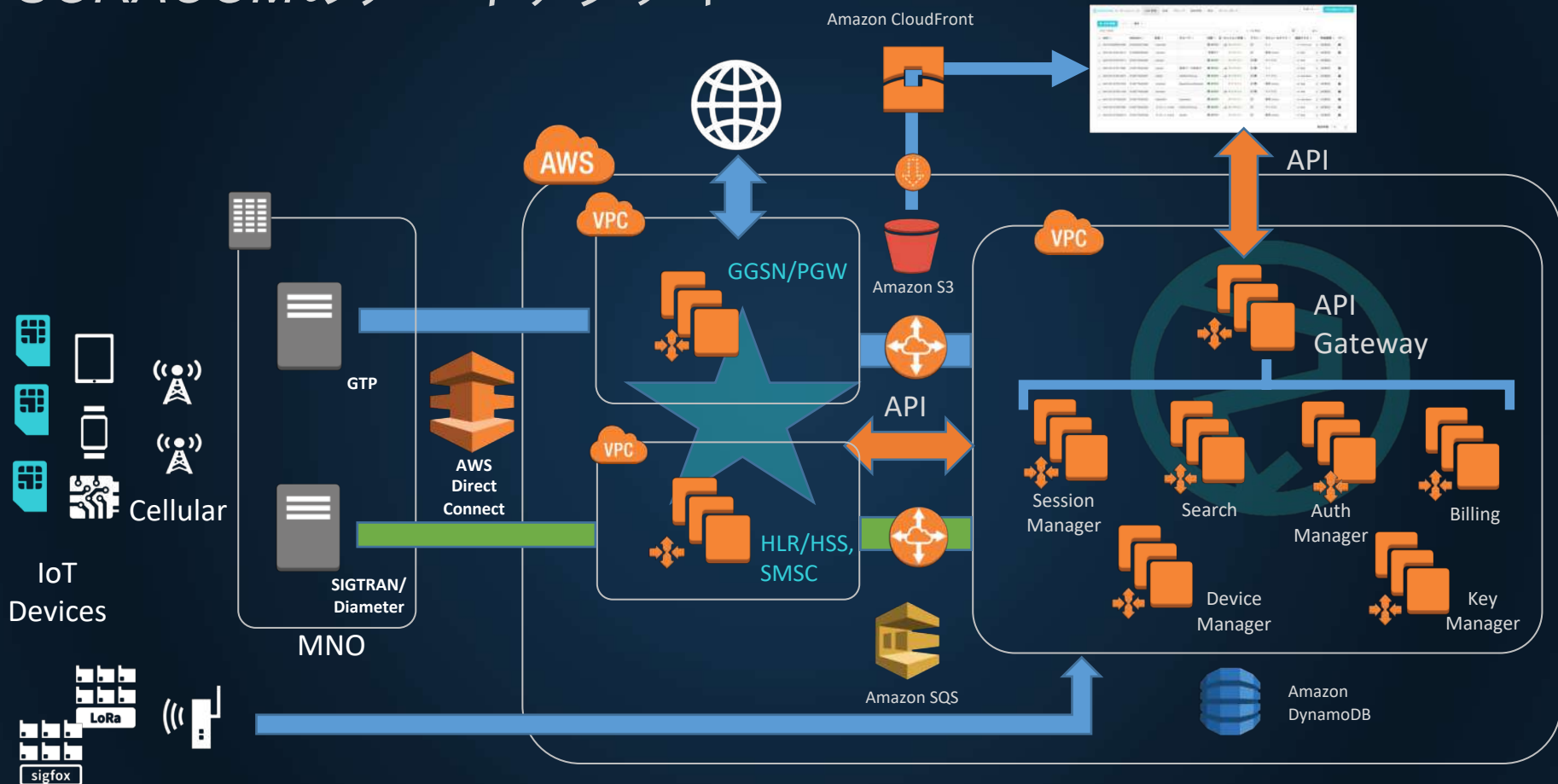
最近シアトル近郊に引っ越しました

Twitter: [@thekentiest](https://twitter.com/thekentiest)

Facebook: fb.me/kenta.yasukawa

LinkedIn: linkedin.com/in/kenta-y

SORACOMのアーキテクチャ



SORACOMにおけるマイクロサービスアーキテクチャ

- 開発スピードのために実践

- APIを合意したら各オーナーが開発運用
- サービス間はAPI / 非同期メッセージで連携

- 属人的になることを恐れない

- 一般的(?)な流れ：
 - チームを作る → 開発
- ソラコムでの流れ：
 - 誰かが先に走って作る → その周りにチームを作る



疎結合で非同期な開発チーム運営の基盤

sli.doの利用 - 質問をオンラインで受け付けます



イベント空間への入り方

1. ブラウザを立ち上げ
2. **slido.com** または **sli.do** を開き
3. イベントコードとして**#IFUP2019A4** を入力

* 質問をするか、すでにされている質問に投票します。



# Enter event code	JOIN
	
# IFUP2019A4	JOIN

マイクロサービスについて
既存サービス or 新規サービス
やってみてよかったこと
やってみて困ったこと

マイクロサービスが 向いているケース 向いていないケース

マイクロサービスは ハードウェアやIoT関係の 開発サイクルにマッチするか

マイクロサービスで 果たして開発スピードはあがるか

公開質問コーナー

sli.doに寄せられたご質問

最後に

A4

進化し続けるプロダクトを作るための開発チーム



及川 卓也
Tably



成田 一生
クックパッド



横路 隆
free



安川 健太
ソラコム



SORACOM